

第 34 回日本精神科病院協会精神医学会 抄録用紙

下記1～16の項目につきましては、枠内にてダブルクリックをした後 ご入力ください。

1 テーマ番号	6
2 応募者(演者)名	篠田 崇次
3 "フリガナ	シノダ タカツグ
4 法人名 (医療法人 会)	医療法人 耕仁会
5 "フリガナ	イリョウハウジンコウジンカイ
6 施設名 (××病院)	札幌太田病院
7 "フリガナ	サッポロオオタビョウイン
8 日精協会員番号	
9 職種	臨床心理士
10 郵便番号	063-0005
11 都道府県	北海道
12 市区町村、番地	札幌市西区山の手5条5丁目1-1
13 建物名、部屋番号	
14 電話番号	011-644-5111
15 FAX番号	011-644-1001
16 電子メール	info@sapporo-ohta.or.jp

統合失調症に対する病棟内・内観療法の適用
 篠田崇次・根本忠典・吉川憲人・太田秀造
 北海道・医療法人 耕仁会 札幌太田病院

はじめに: 統合失調症者の多くは心的外傷や挫折体験を抱え、それが発症、症状増悪の契機となる事も少なくない。一方、自我機能が脆弱な同症者に対して、内観療法などの精神療法は禁忌とされてきた。しかし、思考障害、内的異常体験、家族関係などに配慮しつつ導入する病棟内での内観療法は、当院の長年の実践経験からその解決に有効性を示している。その一例の経過を紹介し、その奏効機序を検討したい。

症例紹介: 20代男性。10代で被注察感、敏感関係妄想などにより前医に通院していた。大学進学後、対人関係がうまくいかず1年で中退し、症状が悪化、入院希望で当院受診となった。同療法を含めた入院治療計画に基づき社会復帰を目指し、本人は再進学を希望したが、社会福祉資源の利用は必須と考えられた。

内観日記、集団療法を段階的に導入後、入院10日目に集中内観を施行した。初期には、「優等生であることに執着し、そのため大学で失敗した」と洞察がなされ、中期では、「過去の失敗にしがみついていた」と語り、終期には、「失敗を後悔しているが、失敗してもいいと気づいた」と洞察を深めた。挫折体験の固着から開放されたようであった。

集中内観後、将来の不安を表出したが、現実的な社会復帰を模索し始めたためと考えられる。その後陰性症状も見られ、病状は一進一退したが、3ヶ月で退院後、共同住居、授産施設の利用に至った。1年後も再発なく、良好に経過している。本症例は、大学中退という挫折体験から症状が増悪した。内観療法は、その挫折感の緩和、広い視点からプラス発想への転換、自己受容に有効であったと考えられる。

まとめ: 当院では、治療計画の中に同療法を取り入れることでピアカウンセラー養成、集団療法など治療構造を拡大することが可能となった。またチーム医療としてシステムの、段階的に関わり、自我の脆弱性を補い、治療成果を挙げている。さらに症状の継時的、力動的な意味を把握し得るため、よい治療関係を構築できる。今後もこのような病棟内・内観療法システムの展開に努力したい。